

「サッカー力」と「人間力」を高める プロ、代表選手への夢を後押し

U-12サッカーチームを経て、中学に入学すると次のステージとして「進学先の中学校のサッカー部」、「クラブチーム」のいずれかを選ぶことになります。本校サッカー部は、一般的な中学校の部活動水準、クラブチームの活動環境を大幅に超える練習施設とスタッフ陣をそろえています。生徒たちは学業にしっかりと向き合いながら、サッカーを思う存分学んで飛躍を期す場となります。

入部する生徒は将来、「プロサッカー選手」、「サッカー日本代表選手」といった高みを目指していることでしょう。成長期の3年間で、身体づくりに励むと同時に、サッカーのメンタル、技術、フィジカル、戦術などを高校・大学・関係機関と連携し習得できます。そうした環境下でサッカー力を高め、人間力を育みます。将来、コーチや審判などサッカーに関わる仕事に就いたり、サッカー以外の道に進んでも身に付けたことは必ず役に立ちます。人工芝サッカー場も整備される予定であり、生徒一人一人の夢の実現に後押しをしていきます。



2020年7月に誕生した金沢学院グリーンフィールドサッカー場

チームポリシー *policy*

1. 文武両道
勉強とサッカーの両立を大切に、創造性豊かな人間形成を目指します。
2. 人間力向上
人間力を高め、自立し、社会に貢献できる人間性を育みます。
3. 中・高・大の連携
高校・大学のサッカー部と連携し、附属中学校のメリットを最大限に生かします。高校・大学コーチの指導、高校リーグ戦への参戦。

NEWS

金沢学院大学附属中学校の南側の場所で、野球場と合わせ、人工芝のサッカー場の建設計画が2022年度完成を目指して進められています。学校法人金沢学院大学としては大学総合グラウンド、金沢学院グリーンフィールドに次ぐ3番目の人工芝サッカー場となります。

指導者の胸の内

サッカーを学び、サッカーに学ぶ



部員には心・技・体を育み、サッカーを通して「人間」を学んでほしいと思います。私が中学校で最初に入部したのは野球部でした。ところが担任の先生の熱心な誘いでサッカー部に移り、チャンスに巡り合います。半年後に県選抜チームに入り、2年生の時には全国で26人の優秀選手に選ばれます。当時、全国から集まってきたライバルには後にJリーグで活躍する中山雅史選手や井原正巳選手らがいました。運命を導いてくれる人との出会い、一流の人たちとの切磋琢磨が人を育てます。すべては「信頼」に始まり、その礎となるのは「人間力」です。サッカー技術を磨き、人間力を高めて社会に貢献する人としての生き方を学びます。

諸江 真一 監督

石川県立金沢錦丘高校、大阪商業大学卒業、金沢学院大学大学院修了。監督として中学県大会優勝、高校県大会準優勝を果たす。

一番の思い出

高校、大学を通じて指導した部員の一人が金沢学院大学OBの大谷駿斗選手です。彼はJ3・カターレ富山を経て2021年はJ2・ツエーゲン金沢でプレーしています。強化すべきポイントを指摘すると、全体練習が終わった後も一人で練習を重ねて試合で必ず結果を出してくれました。地道に精進するひたむきさがあり、指導者と選手という関係を超えて、私自身も教えられる点がありました。

練習場所

金沢学院大学附属中学校近隣に新たに建設される人工芝グラウンドが拠点。荒天時は大学、高校の屋内施設を利用します。

活動予定

平日は授業終了後、2時間程度。試合・実戦練習は土、日曜に行い、休息日を週1日設けます。

信頼の指導者たち *coaching staff*



ヘッドコーチ 前塚 蒼

星稜高校、金沢星稜大学卒。ツエーゲン金沢サッカースクールなどで指導に当たる。全国中学大会でベスト8、全国高校選手権大会で3位、北信越大学1部リーグでベストイレブンに輝く。